

政策提言フォーマット

1 団体概要

団体名

所在地

「みんなの自転車」協議会

台東区千束4丁目2番地4 ホテルみかさ内

代表

工藤 裕司

担当

工藤 裕司

連絡先 tel

携帯電話 090-1646-3638

電話 03-5827-5055

e-mail

ahomaro@edo.net

団体の活動プロフィール

- 1、私たち「みんなの自転車」協議会は、地球温暖化防止のため、自転車の普及と新たな利用方法を提案します。
- 2、私たち「みんなの自転車」協議会は、放置自転車を減らすため、私たち「みんなの自転車」の定着をめざします。
- 3、私たち「みんなの自転車」協議会は、車社会から自転車社会への転換を訴えていきます。

「みんなの自転車」協議会は、現在東京都NPOに登録申請準備中です。

ホームページ <http://www.edo.net/bicycle/>

2 政策提言概要

(1) テーマ 夢は、世の中の自転車が総て共有自転車になったら。

『心と心をつなぐみんなの自転車』

(2) 政策対象分野

- 『環境問題』 自転車利用の促進によって、公共交通のアクセスが容易になり、マイカー利用の減少が見込まれ、排気ガスの減少を期待する。新しい自転車の活用方法を世界に向けて提案することは、世界中が環境問題の関心事における現在で、その意義は極めて重要である。また、自転車はシステム上、過剰な廃棄処分を強いられており、資源の無駄になっております。
- 『放置自転車対策』 公共自転車の提供によって、私物自転車の減少が考えられ、自転車の総量が大幅に減少することが図られる。
- 『まちづくり商業対策』 公共自転車の提供によって、観光客や来街者の使用が可能になり、回遊性やシャワー効果が生まれ、商業活動の活性化が図られる。
- 『教育問題』 公共物の大切さが、いかに日常生活に安価で利便をもたらすか、新しい施策の展開の中で、学校等で、教材として活用を図られる。
- 『雇用問題』 新しい施策の展開により、雇用の創出も考えられる。
- 『環境問題』 自転車利用の促進によって、公共交通のアクセスが容易になり、マイカー利用の減少が見込まれ、排気ガスの減少を期待する。新しい自転車の活用方法を世界に向けて提案することは、世界中が環境問題の関心事における現在で、その意義は極めて重要である。また、自転車はシステム上、過剰な廃棄処分を強いられており、資源の無駄になっております。
- 『放置自転車対策』 公共自転車の提供によって、私物自転車の減少が考えられ、自転車の総量が大幅に減少することが図られる。
- 『まちづくり商業対策』 公共自転車の提供によって、観光客や来街者の使用が可能になり、回遊性やシャワー効果が生まれ、商業活動の活性化が図られる。
- 『教育問題』 公共物の大切さが、いかに日常生活に安価で利便をもたらすか、新しい施策の展開の中で、学校等で、教材として活用を図られる。
- 『雇用問題』 新しい施策の展開により、雇用の創出も考えられる。
- 『環境問題』 自転車利用の促進によって、公共交通のアクセスが容易になり、マイカー利用の減少が見込まれ、排気ガスの減少を期待する。新しい自転車の活用方法を世界に向けて提案することは、世界中が環境問題の関心事における現在で、その意義は極めて重要である。また、自転車はシステム上、過剰な廃棄処分を強いられており、資源の無駄になっております。
- 『放置自転車対策』 公共自転車の提供によって、私物自転車の減少が考えられ、自転車の総量が大幅に減少することが図られる。
- 『まちづくり商業対策』 公共自転車の提供によって、観光客や来街者の使用が可能になり、回遊性やシャワー効果が生まれ、商業活動の活性化が図られる。
- 『教育問題』 公共物の大切さが、いかに日常生活に安価で利便をもたらすか、新しい施策の展開の中で、学校等で、教材として活用を図られる。
- 『雇用問題』 新しい施策の展開により、雇用の創出も考えられる。

(3) 政策手段

- 安全に自転車が走れるような、インフラの整備
- 所有者が管理されていない自転車の取り締まりの強化
- 駅前等、自転車の集中場所で、極めて利便性の高い場所に共有自転車専用駐輪施設の設置。
- モデル地区での社会実験（直径5キロ程度）
- それらに付随した法整備

(4) 提言概要

誰もが、いつでも、どこでも乗れる自転車を地球温暖化防止と放置自転車解消に向けての実行を考えております。都市生活の中では、半径2キロ以内に生活の需要を満たすものは何でも揃っております。従って、都市生活の中での自転車利用が本来最も便利ははずです。自転車の特徴は、安価で、何処にでも置ける、細道通行、最短距離走行が可能で、移動占有率の少ない都市交通の優れたものなのです。ただ、自転車が集団で置かれたり、総量が多いため問題を引き起こしており、解決のためには、共有自転車の存在と、使い勝手のモラルの構築が不可欠となります。

(5) 政策の推進に当たっての検討事項

- どのように、私物と公共物の違いを明確にしていくか。
- パンク、故障車の対応
- 事故の対応
- 私有自転車の道路占用料の徴収